

UDC信州
信州地域デザインセンター

2021年度
活動報告書



UDC
SHINSHU
UNIVERSITY
2021
ANNUAL

REPORT

信州地域デザインセンターとは？

設立の目的

これまで県内各地で多くの活発なまちづくりの取り組みが進められ、成果を上げてきましたが、その一方で、市町村単独で取り組むことには限界もあり、地域が広域で連携して資源をつなぐと共に、協力してまちづくりの担い手を育てていくことも重要になってきています。

2019年8月に設立した信州地域デザインセンター（UDC信州）は、公・民・学が連携した新しい形のまちづくり支援組織として、様々な活動を通じ、「しあわせ信州創造プラン2.0」（長野県総合5か年計画）に位置付けた「未来に続く魅力あるまち」を実現していきます。

理念と活動

3つの理念

連携により
新たな価値を創る

空間の質を向上する

未来を志向する

3つの活動

支える
まちづくり支援

育む
セミナー等開催

発信する
情報発信

構成団体



拠点紹介

UDC信州の活動拠点は、長野市の善光寺の門前、中央通り沿いにある、およそ100年前に建てられた歴史ある古民家を、当時の風情を活かしながら明るい空間にリノベーションした建物の2階です。室内には、まちづくりに関する書籍やまちづくり団体の活動の資料などがあり、自由に閲覧することができます。スタッフ不在時は施錠されていますのでご注意ください。





信州地域デザインセンター
センター長

出口 敦

令和3年度は、長野県内でも新型コロナウイルスによる制約を余儀なくされる中、UDC信州では感染症対策を取った上で、構成団体の方々のご尽力により、活発なまちづくりの支援活動が行われ、ここに報告書としてまとめることができましたこと、御礼申し上げます。

令和3年度のUDC信州の活動実績として、3つの活動方針のうち、「支える」では、県内13市町の16案件について継続的にまちづくりの取組みを支援してまいりました。その内容も、回遊性向上、中心市街地再生、公共施設・公有地活用、ビジョン作成等となっております。

活動方針2つめの「育む」では、県内まちづくりの共通課題となっているテーマによる「まちづくりセミナー」を3回開催しました。また、UDC信州シンポジウム2021では、交通結節点としての鉄道駅周辺地区の多様な役割について議論いただきました。

活動方針3つめの「発信する」では、ホームページやSNSを用いて、県内市町村が取り組むまちづくりの動きとUDC信州の活動等を発信してまいりました。

UDC信州は、開設から3年が経とうとしており、取り組む案件数も増え、内容も多岐にわたっております。それだけ、まちづくりは多様な人々が関わり、つながり、ひろがっていくものとして、これからも皆様からのご相談に対し、俯瞰的、広域的、そしてネットワークの視点を持ちながら様々な関係者と連携して取り組み、持続的で居心地の良い空間づくりのお手伝いを進めてまいります。

スタッフの方々、関係者の方々、ご協力いただいた方々に改めて感謝申し上げますと共に、引き続きのご協力をお願い申し上げます。

信州地域デザインセンターとは? 拠点紹介	1
センター長からごあいさつ CONTENTS INDEX	2
支える 活動報告 支援の現況	3
諏訪湖周での取り組み (長野県、諏訪市、岡谷市、下諏訪町)	4
諏訪市未来プロジェクト	5
諏訪湖周自転車活用まちづくりプロジェクト 諏訪湖イベントひろば活用検討プロジェクト	6
下諏訪グランドデザインプロジェクト	7
茅野駅西口再整備プロジェクト (茅野市)	8
しなの鉄道線沿線地域の 回遊性向上プロジェクト (千曲市、上田市、小諸市)	9
信濃大町100人衆プロジェクト (大町市)	11
奈良井まちづくりプロジェクト (塩尻市奈良井区)	12
公園の利活用プロジェクト(東御市) 空き地・空き家の利活用プロジェクト(安曇野市)	13
まちの元気創出プロジェクト(須坂市) 千曲市総合運動公園基本構想プロジェクト(千曲市)	14
育む 活動報告 UDC信州 シンポジウム2021 / まちづくりセミナー	15
発信する 活動報告 HP・SNS / 3者懇談 / コラム	19
おわりに UDC信州スタッフより	21

支える

SUPPORT

【令和3（2021）年度 総括】

ここでは、UDC信州の活動方針のひとつ「支える」について、2021年度に行った支援の主な取り組みを紹介します。

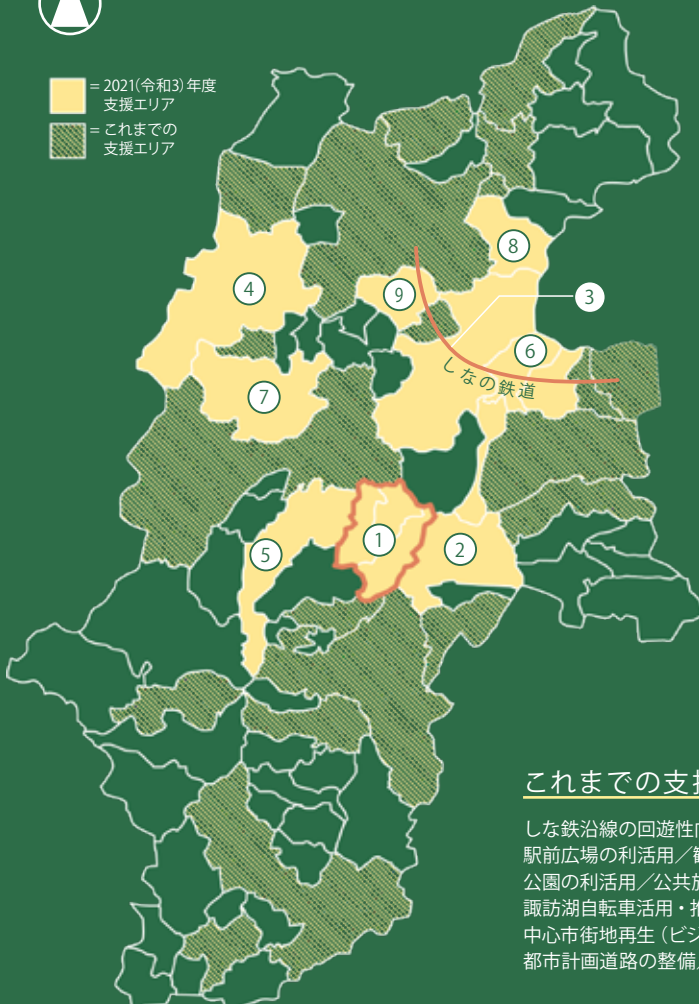
UDC信州では、県内市町村が抱えるまちづくりの課題解決に向けて、ともに考えながらまちづくり支援を行っています。長野県総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン2.0」にある「未来に続く魅力あるまちづくり」の実現に向け、これまで県内各地で、まちづくりに関する様々な企画提案、助言、事業推進支援に取り組んできました。

回遊性向上、中心市街地再生、公共施設・公有地活用、観光地再生、空き家活用、ビジョン作成、エリアプラットフォームの構築等、寄せられた様々なテーマのご相談に対し、何のために、何を狙いとして、どのように行っていけばよいのか、県としての俯瞰的・広域的な視点を持ちながら、様々な関係者と連携し、持続可能で居心地の良い空間づくりのお手伝いをしています。

プロジェクト名	ページ	まちなか再生	ビジョン	観光	交通	公有地活用	広場・公園
① 諏訪湖周での取り組み	4	●	●	●	●	●	●
② 茅野駅西口再整備プロジェクト	8	●	●				●
③ しなの鉄道線沿線地域の回遊性向上プロジェクト	9	●		●	●		
④ 信濃大町100人衆プロジェクト	11	●	●				
⑤ 奈良井まちづくりプロジェクト	12	●		●			
⑥ 公園の利活用プロジェクト	13					●	●
⑦ 空き地・空き家の利活用プロジェクト	13	●					
⑧ まちの元気創出プロジェクト	14	●		●	●		
⑨ 千曲市総合運動公園基本構想プロジェクト	14					●	●



= 2021(令和3)年度支援エリア
 = これまでの支援エリア



2021(令和3)年度 支援実績

16

案件(13市町)

【2021(令和3)年度 支援エリア】

小諸市／東御市／小諸市・東御市・上田市／上田市・千曲市／岡谷市／諏訪市2件／茅野市／茅野市・立科町／下諏訪町／岡谷市・諏訪市・下諏訪町／塩尻市／安曇野市／大町市／千曲市／須坂市

これまでの支援実績（上記含む）

53

案件(33市町村)

【これまでの支援エリア】

軽井沢町2件／佐久市4件／佐久穂町／御代田町／上田市3件／東御市2件／岡谷市／諏訪市／茅野市／下諏訪町／富士見町／伊那市2件／駒ヶ根市／箕輪町／阿南町／飯田市／松川村／松本市／白馬村／千曲市2件／坂城町／中野市／長野市／飯山市／上松町／須坂市／小布施町／信濃町

これまでの支援内容

しなの鉄道の回遊性向上／スマートシティの検討／移住促進・土地活用／駅前広場の整備／駅前広場の利活用／観光拠点の整備／観光地再生／空き地・空き家活用／景観計画の作成／公園の利活用／公共施設・公有地活用／住民主体のまちづくり／諏訪湖自転車活用・推進計画の実現／地域公共交通の検討／地方創生計画／中心市街地再生（ビジョン・駅前・商店街）／都市マス・立地適正化計画／都市計画道路の整備／道の駅整備



諏訪湖周サイクリングロード

基本情報

- 市町村名/諏訪市 ■人口(2022/3/1現在)/約48,000人
- 面積/約110km² ■主な観光地/諏訪湖、上諏訪温泉、諏訪大社上社本宮、霧ヶ峰高原 ■主な祭り/御柱祭、諏訪湖祭湖上花火大会
- 郷土料理/味噌天井、わかさぎ
- 市町村名/岡谷市 ■人口(2022/3/1現在)/約47,000人
- 面積/約85km² ■主な観光地/諏訪湖、岡谷蚕糸博物館、イルフ童画館、鳥居平やまびこ公園、横河川の桜アーチ、スカイラインミュージアム
- 主な祭り/岡谷太鼓祭り、とうろう流し・花火大会、鶴峯公園つつじ祭、小坂公園あじさい祭、出早公園もみじ祭
- 郷土料理/うなぎ、地酒(神渡・高天)、味噌
- 市町村名/下諏訪町 ■人口(2022/3/1現在)/約19,000人
- 面積/約67km² ■主な観光地/諏訪大社下社秋宮、春宮、諏訪湖、八島ヶ原湿原 ■主な祭り/御柱祭、お舟祭り ■郷土料理/塩羊羹、うなぎ

諏訪湖周での取り組み

諏訪湖周り広域連携による魅力アップ 諏訪湖周での取り組み

長野県、諏訪市、岡谷市、下諏訪町



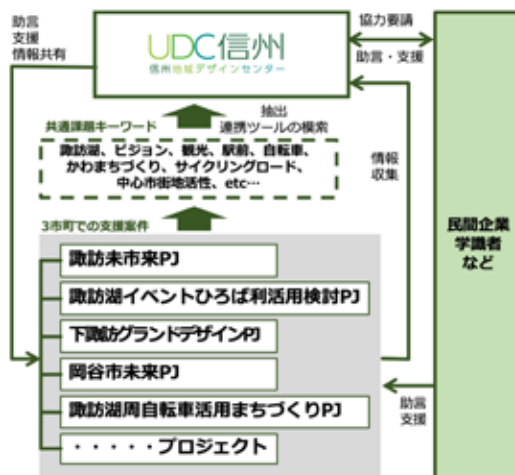
▲ 諏訪湖周でのまちづくりの動き

- まちなか再生
- ビジョン
- 観光
- 交通
- 公有地活用
- 広場・公園

プロジェクト説明

諏訪湖は、長野県のほぼ中央に位置する周囲約16kmの県内最大の湖で、湖周には岡谷市、諏訪市、下諏訪町が隣接し、人口約12万人の生活圏が形成されています。

3市町から個別にまちづくり相談があり、各々プロジェクト化していますが、UDC信州がハブとして参画することで、単体で完結するのではなく、官と民、行政間をつないで、情報共有、相互連携を図りながら、「諏訪湖」周として一体的な魅力づくり、価値向上を目指しています。



諏訪湖周でのUDC信州とプロジェクトの関係図▶

自分たちが欲しい上諏訪駅周辺の未来を自ら考え、自ら実現していく！

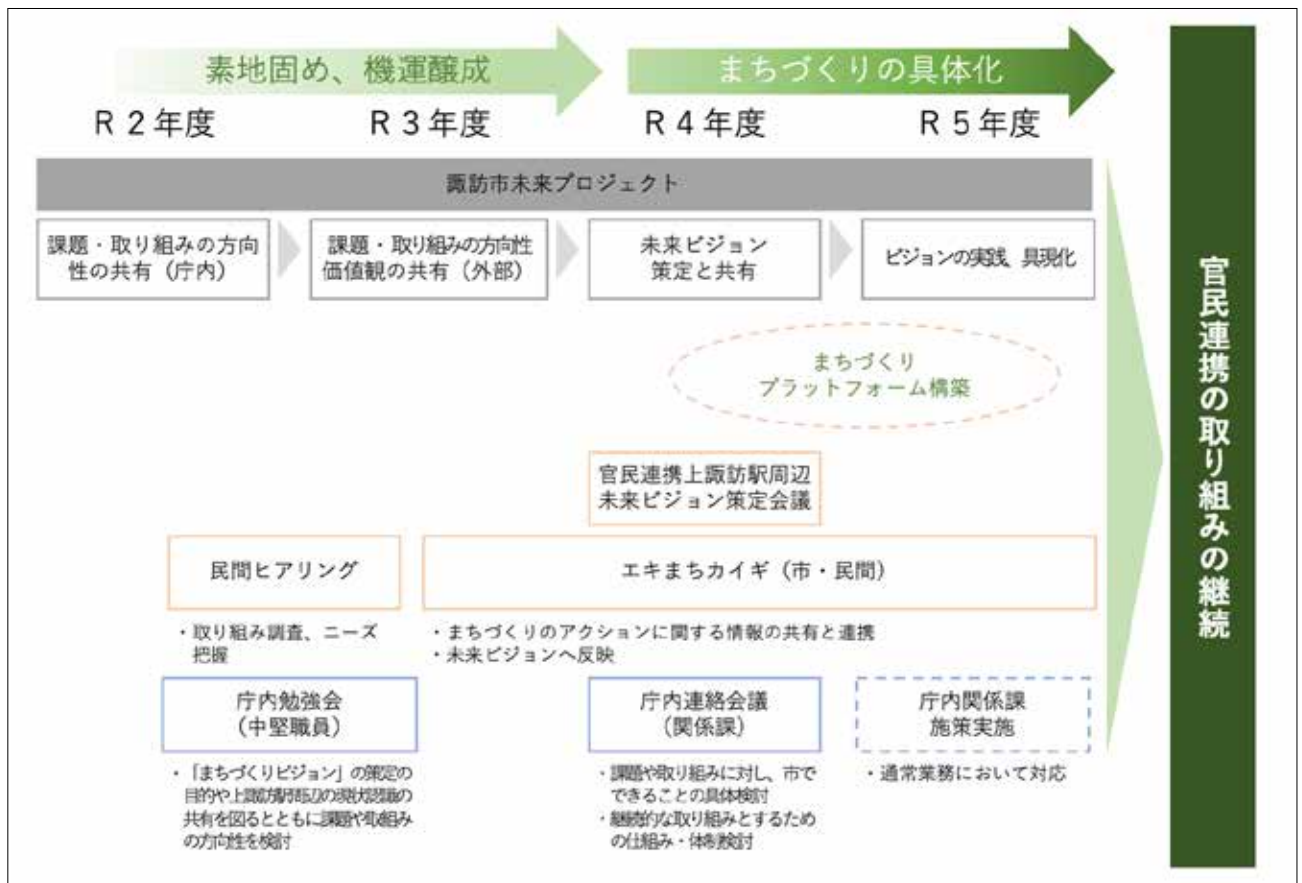
諏訪市未来プロジェクト 諏訪市

プロジェクト経緯

- 2020年 諏訪市より上諏訪駅周辺のまちづくりに関して相談あり。庁内アンケート、ヒアリング実施。職員勉強会の実施。
- 2021年 未来ビジョン策定、プラットフォーム構築に向けた前段として、「エキまちカイギ^{*}」実施。
- 2022年 諏訪市とUR都市機構が「上諏訪駅周辺のまちづくり推進に向けた協定書」を締結。



第一回エキまちカイギの様子



官民連携の取り組みの継続

▲ 諏訪市未来プロジェクトのフロー

プロジェクト説明

公・民が上諏訪駅周辺地域にて共通目標（未来ビジョン）を持てるよう、持続的な官民協働プロジェクトを立ち上げつつ未来ビジョン検討を行い、中心部全体の魅力向上を図っていきます。

【エキまちカイギ^{*}の実施】

未来ビジョン策定、まちづくりプラットフォーム構築に向けた前段として、民間も行政もそれぞれの立場でできるまちづくりのアクションを行い、民と民、民と行政が情報共有・連携することでまちづくりの効果を高める場、通称「エキまちカイギ」が始動しました。

UDC信州ではこれまでに、庁内の

連携や意識共有を図るため職員勉強会開催やエキまちカイギの実施・運営支援を行うことで、官民のまちづくりへの機運を醸成してきました。

2022年度に官民連携上諏訪駅周辺未来ビジョン策定を予定しており、その後、ビジョンに基づく取り組みを試行しながら、諏訪市とともにまちづくりの具体化を推進していきます。

^{*}上諏訪駅周辺の未来のまちづくりを楽しむ会議

今後の展開

2022年度はいよいよ、未来ビジョンの策定です。エキまちカイギでのプロジェクト試行を並行しながら、UDC信州は諏訪市、地域の皆さんと一緒に考え、「人」、「組織」、「情報」を繋げる役割を担い、「欲しい未来」を実現、持続を図っていきます。

諏訪湖周の取り組み

まちなか再生

ビジョン

観光

交通

公有地活用

広場・公園

諏訪湖周自転車活用まちづくりプロジェクト

長野県、諏訪市、岡谷市、下諏訪町

プロジェクト経緯

2020年 諏訪湖サイクリングロードの整備が進む中、その関係者が多いことから連携や合意形成が難しく、利活用等の検討が停滞。
また、走行・利用 ルールの統一が図られておらず、自転車走行時において危険が生じている懸念。

2021年 自治体や各種団体、民間事業者が自転車活用推進のために連携するプラットフォーム「諏訪湖周自転車活用推進協議会」を設立。
ソフト事業、ハード事業を実施する様々な主体がネットワークを構築し、諏訪湖周辺の魅力や活力向上を目指す。

プロジェクト説明

諏訪湖周辺には観光資源が点在、生活拠点も広がり、2024年供用開始予定のサイクリングロードの利活用による地域の回遊性・相乗効果の高まりが期待されています。

UDC信州では、県と周辺市町との連携（広域連携）や市町県内部各課の横断的な繋ぎ（庁内連携）を支援しながら、諏訪湖周辺の魅力発掘や周辺地域の活動情報共有、協議会運営等のサポートを行っています。広域的

な自転車活用推進によるまちづくりが自立的に進められるよう支援しています。

長年の課題だった市所有の遊休地を開かれたひろば空間へ

諏訪湖イベントひろば利活用検討プロジェクト

諏訪市

プロジェクト経緯

2006年 諏訪市土地開発公社が2006年に旧東洋バルヴ諏訪工場跡地を取得。

2019年 3月に「旧東洋バルヴ諏訪工場跡地活用基本構想」を策定。

今後の活用の方向性を定めることを目的として、「諏訪湖イベントひろば基本計画」策定に向けた専門委員会への事務局支援の相談あり。

2021年 「諏訪湖イベントひろば基本計画」策定。

プロジェクト説明

長年、利活用方法が課題になっていた約7haの公共用地「諏訪湖イベントひろば」について、諏訪圏域における拠点として、行政・民間事業者で役割分担・連携しながら、整備を検討していきます。

【基本計画策定にかかる事務局支援】

市が基本計画策定のために開催した「諏訪湖イベントひろば基本計画専門委員会」について、委員会の進め方や運営方法、広域的な視点や民間ニーズなどを含めた多角的な視点からのアドバイスを実施し、事務局を支援してきました。

【事業公募に向けた条件整理】

2023年度以降予定している事業公募開始までの間、ひろばの試行活用を行い、ニーズを把握するとともに、民間事業者との対話を行いながら事業公募に向けた条件整理等を支援していきます。

KEY PERSON'S VOICE

UDC信州とのお付き合いは、設立間もない頃ちょっとあいさつをとUDC信州を訪れた時に「諏訪にも遊びにきてほしい。」と軽く言った事がきっかけだったと思う。そしたらほんとに来てくれて感激。（した反面、後戻り出来なくなっちゃったけれど。）

その後、UR都市機構もご紹介頂き、駅周辺のまちづくりが少しずつ動き出している状況です。

2021年度から、国土交通省の「官民連携まちなか再生推進事業」を活用して上諏訪駅周辺のまちづくりを進めるべく、エリアプラットフォームの構築と未来ビジョン策定を目指しています。昨年11月に、プラットフォーム構築の前段として「エキまちカイギ」を立ち上げました。多くの方にご参加頂き関心の高さに驚いています。

正直、UDC信州のサポートが無ければこの事業を立ち上げ推進させていく事は出来なかったと思っています。

県職員の方とは、関係法令の解釈や各種申請手続きの相談や交付金事業等の協議など形式的な話をする事が多いけれど、UDC信州のみなさんは、ほんとフレンドリーに接してくれて話しやすいです。フットワークが軽くて公務員っぽくなくて、自治体の課題に親身になってアドバイスしてくれる。一緒にまちづくりを進めて行こうとする連帯感を感じています。

皆さんのサポートにきちんとリアクション出来ているのか、些か不安を感じる今日この頃ですが見捨てないでくださいね。今後もよろしくお願いします。

諏訪市
都市計画課
金子 健一郎さん



諏訪湖周の取り組み

まちなか再生

ビジョン

観光

交通

公有地活用

広場・公園

プロジェクト経緯

2020年 下諏訪町より、ランドデザイン策定についての相談あり。
策定のアドバイス及び学識経験者を紹介し、7月に策定委員会、ワーキンググループを立ち上げ。

2021年 旧下ノ諏訪宿（諏訪大社下社秋宮周辺）のランドデザイン（俯瞰図）を公表。



下ノ諏訪宿の街並み

基本情報

- 市町村名／下諏訪町
- 人口（2022/3/1現在）／約19,000人
- 面積／約67km²
- 主な観光地／諏訪大社下社秋宮、春宮、諏訪湖、八島ヶ原湿原
- 主な祭り／御柱祭、お舟祭り
- 郷土料理／塩羊羹、うなぎ

「住みたいまち、元気な声がひびくまち」の実現に向けて

下諏訪ランドデザインプロジェクト（下ノ諏訪宿面影整備ランドデザイン策定事業）

下諏訪町

下ノ諏訪宿面影整備ランドデザイン ～「宿場町・温泉・まちあるき・ヒト」4つの柱でつなく未来ビジョン～



ワークショップ（R3.7～）

商工会議所、温泉旅館組合、商業会、地元事業者、高校生、地域おこし協力隊、県観光機構の方々に参加していただき、意見交換、まちあるき等を行った。参加者からは、活発な議論があり、下諏訪の街らしい、歩いて楽しいまちづくり、温泉・宿場の風情が感じられるまち、人とのつながりが感じられる等の意見がでた。

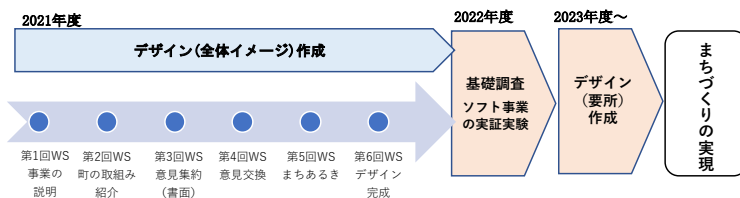


▲ 第4回 意見交換会



▲ 第5回 まちあるき

スケジュール



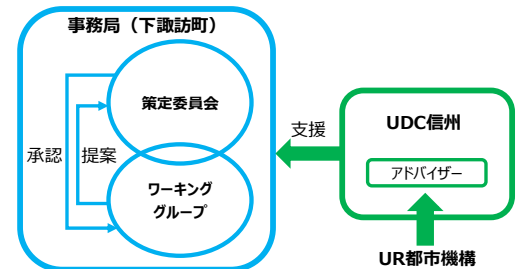
プロジェクト説明

下ノ諏訪宿は、「中山道と甲州街道が会う、大社といで湯の宿場まち」として多くの観光客で賑わってきました。今後エリア全体を回遊してもらい「稼げる観

光地」づくりとともに「住みたいまち・元気な声がひびくまち」の実現に向け、地域住民・事業者・学生など幅広い立場の方からの意見を反映した「ランドデザイン」の策定を支援していきます。

今後の展開

2021年度は、策定委員、ワーキンググループメンバーから出てきた意見からエリア全体を俯瞰するデザインを策定しました。2022年度は、各スポットの具体的な使い方、整備イメージを作り、実践に向けた支援をしていきます。



▲ 体制図

KEY PERSON'S VOICE

本地区における「賑わい創出」や「住民が誇れるまち」のまちづくりに向けて、「民公」の連携で目指す姿の検討を行うための事業として、スタートしました。

当町としても新たな試みに戸惑う中、UDC信州の皆さま方のご支援・ご助言をいただき、無事に事業の方向性を決めることが出来ました。

2022年度は「学」との連携を図りながら、より効果のある事業へと進めていきます。引き続き、サポートをお願いします！

下諏訪町建設水道課
森 耀也さん





茅野駅西口駅前広場

プロジェクト経緯

- 2019年 茅野駅周辺関係者による茅野駅西口駅前広場リニューアル基本構想を策定。
茅野市とUR都市機構が「茅野駅周辺まちづくり推進に向けた協定」を締結。茅野駅西口駅前広場リニューアル基本計画策定有識者委員会を発足。
- 2020年 茅野駅西口駅前広場リニューアル基本計画を策定。
- 2021年 公共空間の利活用を目的とした社会実験「ブックフェスタ・ジャパン2021」を実施。

基本情報

- 市町村名/ 茅野市
- 人口(2022/3/1現在)/ 約56,000人
- 面積/ 約267km²
- 主な観光地/ 八ヶ岳、蓼科、白樺湖、諏訪大社上社前宮、尖石遺跡
- 主な祭り/ 御柱祭
- 郷土料理/ そば、寒天

茅野駅西口再整備プロジェクト

まちなか再生

ビジョン

観光

交通

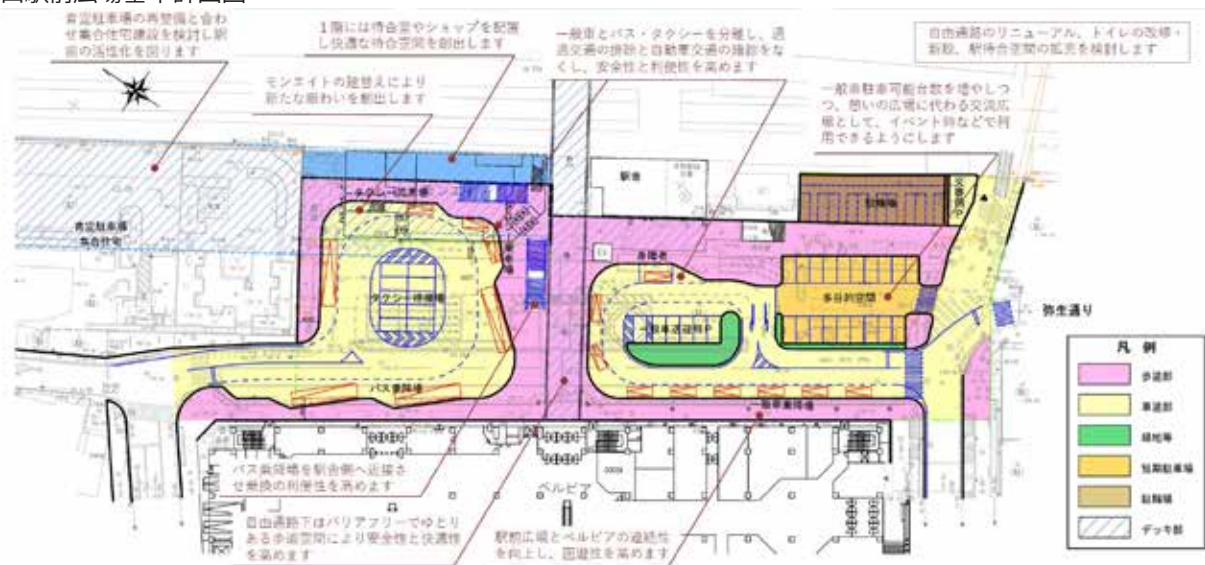
公有地活用

広場・公園

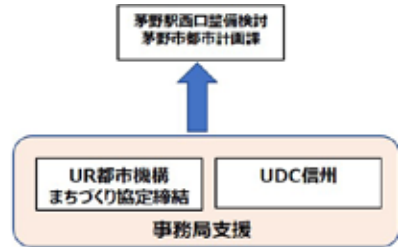
駅周辺の課題解決と歩行者中心の駅前広場に向けて 茅野駅西口再整備プロジェクト (茅野駅西口駅前広場周辺整備事業)

茅野市

西口駅前広場基本計画図



スケジュール



▲体制図

プロジェクト説明

2018年より茅野市が進める茅野駅周辺のみちづくりについて、支援を行ってきました。2020年3月に市が「茅野駅西口駅前広場リニューアル

基本計画」を策定。(図: 西口駅前広場基本計画図) 今年度は、計画の実現に向けて駅周辺の公共空間の利活用を目的とする社会実験等を実施してきました。



○公共空間の利活用を目的とした社会実験「ブックフェスタ・ジャパン2021」(2021年9月~10月)

茅野駅西口駅前広場リニューアル事業の推進に向け、茅野駅周辺空間で公共空間の利活用を試みる社会実験として行われた。茅野駅周辺空間に本棚を一定期間設置するとともに、本を通じて人と人が繋がる取組みを行うことで、賑いの影響について検証した。

今後の展開

2022年度は、今年度に引き続き社会実験を通じて駅周辺の公共空間を活用方法の検討の支援を行う予定です。今後、市が策定する駅西口周辺の再整備計画の支援を行っていきます。

KEY PERSON'S VOICE

2021年度に実施した社会実験では、「本 (book)」を切り口に、駅周辺空間の日常に変化を与え、空間への滞在、本を介した交流について検証しました。駅利用者に、『ちょっと良い空間になったかも!』と感じてもらったことが、駅周辺まちづくりへの関心を高め、将来的なりリニューアルにつながることを期待しています。

茅野市都市計画課
梯 泰弘さん



プロジェクト経緯

- 2019年 沿線自治体から公共交通及び地域資源の活用等について相談あり。
- 2020年 共通の課題を持った沿線4市と勉強会を設置。
- 2021年 上田・千曲エリアでシェアサイクルの社会実験を実施。
小諸エリアでまちなか回遊のための社会実験を実施。

基本情報

※2021年度の活動エリアは3市ですが、参考に沿線全体の基本情報を載せています。

- 市町村名／軽井沢町、御代田町、佐久市、小諸市、東御市、上田市、坂城町、千曲市、長野市
- 人口（2022/3/1現在）／約700,000人（駅のある8市町合計）
- 面積／約1,986km²（駅のある8市町合計）
- 主な観光地／軽井沢高原、浅間高原、懐古園、湯の丸高原、上田城、さかき千曲川バラ公園、戸倉上山田温泉、善光寺



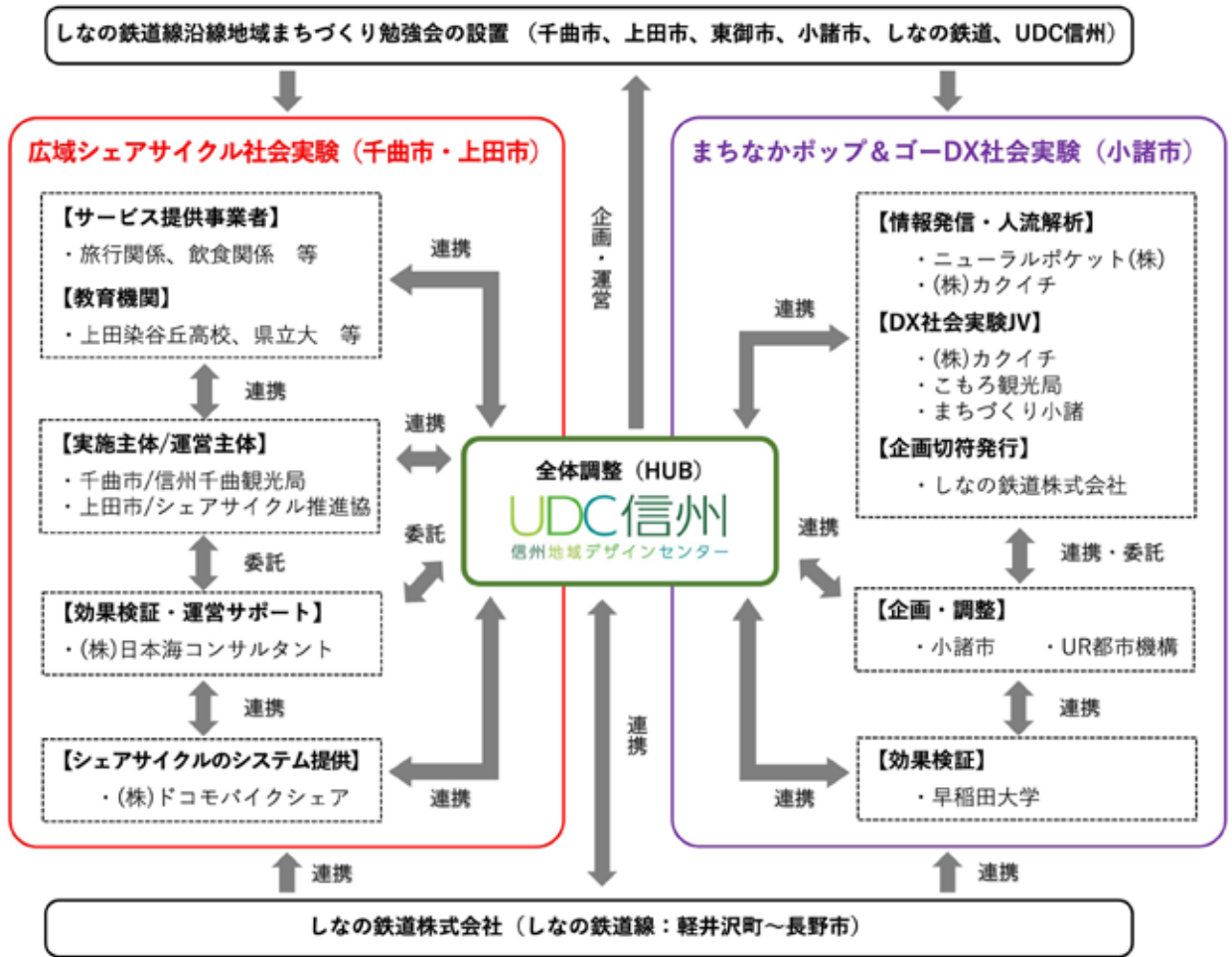
祝 上田市・千曲市広域シェアサイクル社会実験 上田市出発式

広域シェアサイクル社会実験 出発式の様子

沿線に点在する地域資源をつなげ広域回遊を実現！

しなの鉄道線沿線地域の回遊性向上プロジェクト

千曲市、上田市、小諸市



▲体制図

体制図説明

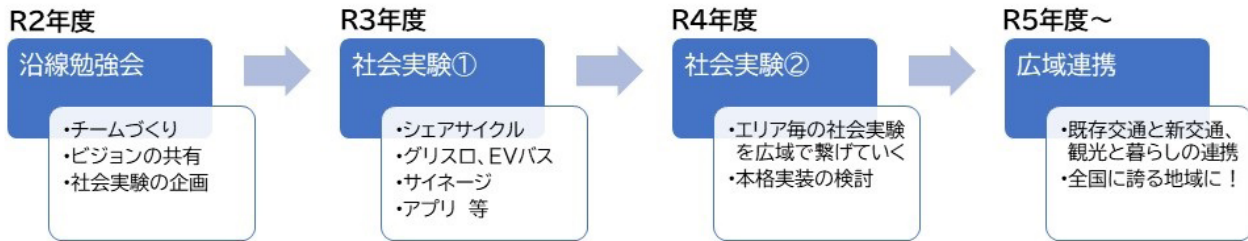
しなの鉄道線の駅と地域資源の位置関係をみると、駅と資源が比較的近距离の地域と、遠距離の地域に分けられます。「広域回遊」を実現しようとした場合、それぞれの地域で求められる交通手段が異なってくることから、2021年度は、距離の違いを考慮して2つのエリアで社会実験を企画、実施

しました。

ひとつは、駅と地域資源が比較的近距离にある千曲市・上田市エリアです。ここでは、2市で共通に使えるシェアサイクルを導入。観光部局と連携したサイクリングツアー等も実施したこともあり高い満足度を得ることができました。

もうひとつは、駅と地域資源が比較

的遠距離にある小諸市です。ここでは、まちなかを巡るグリーンスローモビリティや駅と郊外を巡るEVバスの運行等を計画しています。また、小諸市では、来訪者への情報提供がまちなか回遊にどのような影響を与えるかを調べるため、デジタルサイネージによる情報発信なども行う予定です。



▲プロセス図

役割とプロセス

体制図のとおり、UDC信州の役割は広域エリアでの全体調整 (HUB) になります。自治体連携がスムーズに進むように各自治体の様々な部局と話をしたり、県庁の担当課と調整を図ったりしています。また、広域連携を図ろうとすると、自治体に加え、それぞれ

のエリアで関わっている団体や企業等など、多岐に渡ってくるため、それらをつなぐHUBとなり情報の整理等も行っていきます。

本プロジェクトは沿線4市としなの鉄道、UDC信州が集まった勉強会からスタートしています。この勉強会を通じて、それまで何となく感じていた

「エリア全体で考えるべき」という認識を共有できたことがその後の展開に繋がっています。このような勉強会を設置することもUDC信州の役割だと感じています。



▲沿線4市+しなの鉄道+UDC信州が集まった勉強会



▲社会実験に係る連携協定を締結：小諸市（オンライン開催）

今後の展開

コロナ禍ではありますが「できることをやっていく」ことが重要だと考えているので、引き続き、市町村等の抱える課題を整理しながら必要な社会実験を企画、実施していきたいと思っています。

2022年度には、引き続き社会実験を予定している千曲市、上田市に加えて、新たな自治体でもシェアサイクルの導入が検討されていることから、これらを連携させるとともに、各地のコンテンツを繋いでいき、全国に誇れる地域にしていければと思います。

KEY PERSON'S VOICE

地元はもちろん、しなの鉄道線沿線地域の活性化の一助になればとの思いでした。ゼロからのスタートでしたが、UDC信州や上田市、関係するすべての皆さんに助けられ、あっという間の半年間でした。次年度の展開も楽しみです。

KEY PERSON'S VOICE

初の試みとなったシェアサイクル社会実験でしたが、UDC信州の皆様のサポートをいただきながら、無事実施することができました。引き続き、地域の活性化に向けてシェアサイクルの導入の検討を進めていきます。



千曲市観光交流課
緑川健さん



上田市都市計画課
東城雄飛さん

プロジェクト経緯

- 2019年 中心市街地の活性化について相談あり。
- 2020年 「官民連携まちなか再生推進事業」を活用しながら、プラットフォームの構築と未来ビジョンの策定。
- 2021年 大町市中心市街地にぎわい社会実験の実施。

基本情報

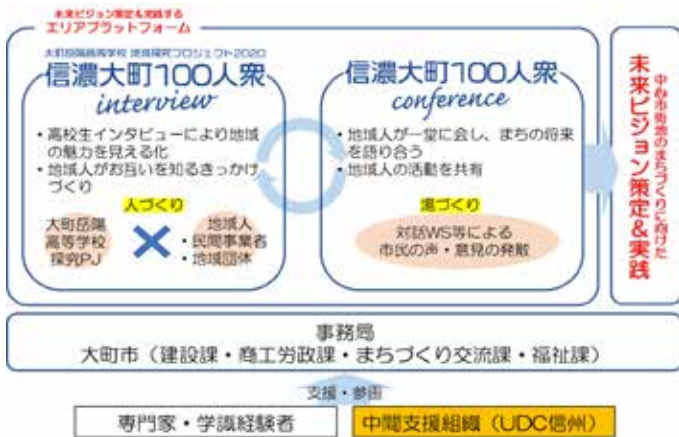
- 市町村名 / 大町市
- 人口 (2022/3/1現在) / 約26,000人
- 面積 / 約565km²
- 主な観光地 / 黒部ダム・立山黒部アルペンルート、仁科三湖
- 主な祭り / 若一王子祭り、北アルプス国際芸術祭
- 郷土料理 / 黒部ダムカレー、おやき



社会実験 ポケットパークの様子

公・民・学連携でまちなかの未来を描く 信濃大町100人衆プロジェクト

大町市



▲概略図

▲社会実験のチラシ

▲社会実験の様子



▲プロセス図

プロジェクト説明

大型店舗の郊外進出や後継者不足、空き店舗等の増加による中心市街地の衰退が進行しつつありました。

そこで、中心市街地の賑わい再生に向けて、まちなかで活動する多彩な人

材が連携する“エアラプラットフォームの構築”とまちなかの将来ありたい姿を描く“未来ビジョンの策定”をUDC信州が支援しました。

2021年度は、まちなかの様々な資源の活用による回遊性の向上や滞在

空間の創出等の可能性を探るために実施した“中心市街地にぎわい社会実験(10/22~24)”を支援し、来街者の回遊実態の把握や公共空間や空き資源の活用可能性、まちなかに対する意見などが得られました。

今後の展開

2022年度は、将来像を描いて終わりにせず、小さな取組を積み重ねながら実現に向けて動き出せる“持続的な体制づくり”を引き続き支援していきます。

KEY PERSON'S VOICE

わくわくするような中心市街地の明日を可視化して、より多くの「地域人」と共有できるよう、取り組んでいます。

現実には課題も多く、日々悪戦苦闘ですが、UDC信州の皆様にご協力いただいた「中心市街地にぎわい社会実験」では、まちなかの明るい未来を覗き見ることができ、「なんとかなるかも！」と思うことができました。地元愛溢れる「地域人」がわんさか増えるよう、これからも頑張ります。

大町市商工労働課
商業労働係
傘木 信行さん





奈良井ラボ ワークショップの様子

プロジェクト経緯

2020年 奈良井区のまちづくり(町並みの保全、伝統文化の継承、コミュニティの維持等)について相談あり。

専門家を紹介するとともに地域の未来に関する検討に着手。

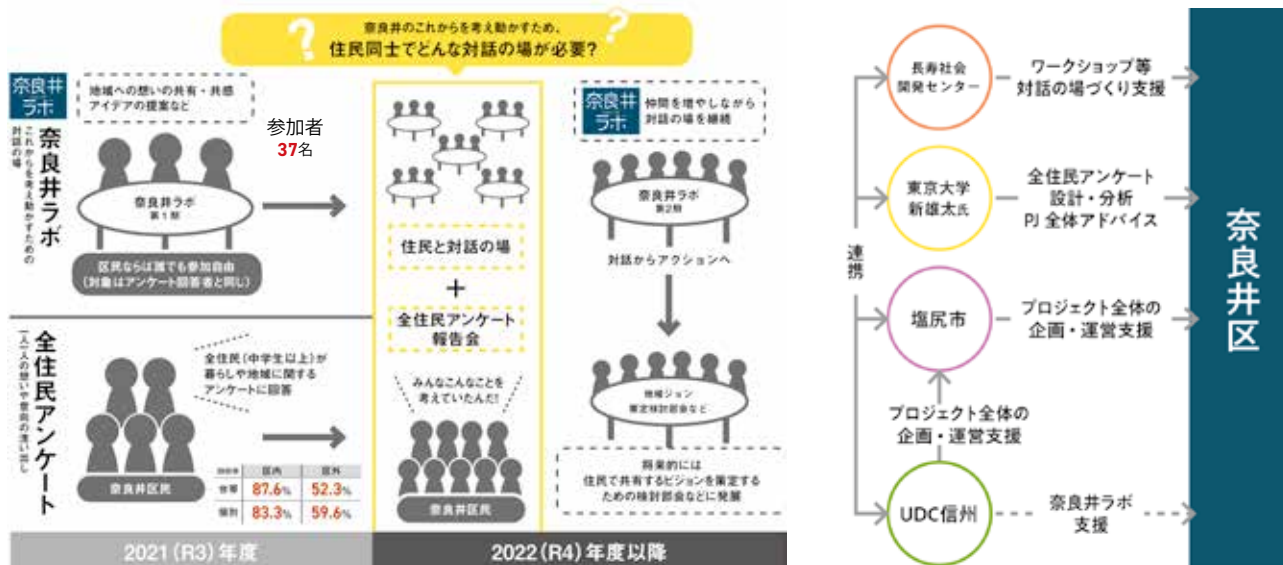
2021年 取り組みの具体化。「奈良井ラボ」の設置、「全住民アンケート」の実施。

基本情報

- 市町村名／塩尻市(奈良井区)
- 人口(2022/3/1現在)／約67,000人(奈良井区 約600人)
- 面積／約290km²(奈良井区 約65km²)
- 主な観光地／奈良井宿、二百地蔵、中村邸、木曾の大橋(奈良井区)
- 主な祭り／鎮神社例大祭、奈良井宿場祭り、アイスキャンデル祭り(奈良井区)
- 郷土料理／五平餅、ほう葉もち、すんぎ漬け

「400年続く町並みを後世に残したい」多様な主体が共創して取り組む 奈良井まちづくりプロジェクト

塩尻市



プロジェクト説明

2021年、空き家の利活用等をきっかけとして住民全体のまちづくりに対する機運が高まり、全住民で今後のまちづくりの方向性を定め、動き出すためのプロジェクトが本格始動しました。主な取り組みとして、①住民一人ひとりの暮らしの実態や意向を顕在化する「全住民アンケート」、②地域に対して問いを持ち、調べ、これからの考えて動き出すための対話の場「奈良井ラボ」を両輪で実施しました。①全住民アンケートは8割を超える高い回収率を達成し、住民の意向等を精

度高く明らかにすることができ、②奈良井ラボでは、多様な世代・属性の住民がフラットに對話できる場づくりの工夫を凝らし、ワールドカフェや、中学生の案内によるまち探検、先進地視察など全6回を開催し、UDC信州はこれらの活動を支援しました。

度高く明らかにすることができ、②奈良井ラボでは、多様な世代・属性の住民がフラットに對話できる場づくりの工夫を凝らし、ワールドカフェや、中学生の案内によるまち探検、先進地視察など全6回を開催し、UDC信州はこれらの活動を支援しました。

KEY PERSON'S VOICE

UDC信州には、専門的なアドバイスや専門家のアサイン、事務局支援等、多方面においてご支援をいただきました。中でも、担当コーディネーターが当事者意識を持って熱心に支援をしてくださったことが何ものにも代え難い資産となりました。

一朝一夕に結果の出ない取り組みですが、今後もUDC信州から支援をいただく中でプロジェクトを継続し、ゆくゆくは他地域に横展開可能なまちづくりのモデルケースとなることも目指していきたいと思ひます。



塩尻市
官民連携推進課
荻上 真功さん

今後の展開

2021年度の活動をふまえて、次年度は「対話からアクションへ」をスローガンに掲げた「奈良井ラボ第2期」を展開予定です。また、本プロジェクトを軸に住民協働のプロセスなどについて、塩尻市内・木曾広域・長野県内各所を繋ぎ、広域での連携を必要に応じて支援していきます。

プロジェクト経緯

- 2019年 東御中央公園の維持管理費削減について相談あり。
- 2020年 公園の価値向上も見据えた実態調査を実施。
- ~2021年 公園利用者だけでなく市民の意識調査も実施。

基本情報

- 市町村名/ 東御市 ■人口(2022/3/1現在)/ 約30,000人
- 面積/ 約112km² ■主な観光地/ 海野宿、湯の丸高原、芸術むら公園
- 主な祭り/ 雷電祭り~東御どすこいSUNSUN ~、巨峰の王国祭り、天空の芸術祭
- 郷土料理/ くるみ、巨峰、ワイン、八重原米



東御中央公園

皆に親しまれる公園のさらなる魅力アップ 公園の利活用プロジェクト

東御市

プロジェクト説明

東御中央公園は、東御市の総合公園で体育施設と芝生広場等を有する公園エリアにて構成されています。当初は、維持管理経費の削減についての相談でしたが、その検討と並行して、より満足度の高い公園を目指し、費用対効果も上げていくことを提案しました。

2020-2021年度は、利用面及び管理面の問題点を洗い出すとともに、満足度の高い公園にするための課題整理を行うため、平日と休日の利用実態調査や市民アンケートの実施を支援しました。これにより多世代、利用頻度、利用方法など、様々な要素から公園の実態を把握することができました。

今後の展開

利用者の声を踏まえつつ、公園(特に芝生広場周辺)の活用促進を目的とした社会実験等も行いながら、さらなる魅力向上と管理運営の最適化を図り、利用者・管理者ともに満足度の高い公園を目指します。

プロジェクト経緯

- 2020年 空き家を活用したまちづくりの進め方について相談。
- 2021年 地域団体と連携した官民連携の取組みを検討。
「明科駅周辺まちあるき空き家空店舗見学会」の支援。
「空き家の活用に関する講演会及び報告会」の共同開催。

基本情報

- 市町村名/ 安曇野市 ■人口(2022/3/1現在)/ 約94,000人
- 面積/ 約332km² ■主な観光地/ 穂高神社、大王わさび農場
- 主な祭り/ 穂高神社御船祭り、安曇野明科あやめまつり
- 郷土料理/ わさび、蕎麦



空き家見学会の様子

眠っている地域資源「空き家」の未来を創造!

空き地・空き家の利活用プロジェクト

安曇野市

プロジェクト説明

当初は、まちの中心である明科駅周辺に空き家が増加し、空洞化が進んでいることから、空き家をまちづくりにどう生かしていけばよいか?という相談からスタートしました。その後、空き家の利活用に取り組む地域団体「合同会社うずまき」の運営するシェアスペース「龍門涸てらす」などの活

動を契機に、官民が連携して空き家の活用を進めていく方法も検討することになりました。

UDC信州は、先行地域のキーマンとつなげ、活動がより活発化するサポートや、市内で空き家活用の活動をされている「NEX-T安曇野」と「うずまき」が活動報告を行う会を安曇野市と共同開催しました。

今後の展開

2021年度は、官民連携での取組みがスタートし、明科地区でも空き家の活用事例が生まれ、賑わいを取り戻す一歩を踏み出しました。今後は、この取組みをモデル事例として継続・発展させるための体制等について検討していきます。



須坂市のまちなみ

プロジェクト経緯

2020年 須坂市から、事業の検討体制や進め方について相談あり。
信州須坂まちの元気創出推進委員会設立。

2021年 2020年に引き続き委員会開催。

基本情報

- 市町村名／須坂市 ■人口(2022/3/1現在)／約49,000人
- 面積／約150km² ■主な観光地／臥竜公園、米子大瀑布、峰の原高原、須坂市動物園、須坂温泉、仙仁温泉
- 主な祭り／カッタカタまつり、臥竜公園桜祭り、わくわくおひなめぐり
- 郷土料理／みそすき丼、巨峰、シャインマスカット

「まちづくりの未来ビジョン」を描く まちの元気創出プロジェクト

須坂市

プロジェクト説明

須坂市では、国の地方創生推進交付金を活用し、2020年度から2022年度までを計画期間とする『『まるごと博物館構想』を核とした『人』・『地域資源』で紡ぎだすまちの元気創出事業』を行っています。

市内に点在する文化施設や文化財、

歴史芸術、郷土食、それらを取り巻く人のすべてを活用する、“まちの元気を作り出す”プロジェクトで、2021年度、UDC信州としては、まちの中心にある旧商家の建物を活用した総合休憩所の整備、回遊バスの検討等にアドバイスを行ってきました。

今後の展開

2022年度は、事業の最終年度に当たります。総合休憩施設のオープン、市内の周遊バスの試験運行が始まります。UDC信州としては、施設の活用方法、試験運行の効果測定等、「まちの元気を作り出す」プロジェクトの支援を行っていきます。



ワークショップの様子

プロジェクト経緯

2021年 千曲市総合運動公園基本構想の策定について相談あり。
「千曲市総合運動公園基本構想策定協議会」の運営を支援。

基本情報

- 市町村名／千曲市 ■人口(2022/3/1現在)／約58,000人
- 面積／約119km² ■主な観光地／戸倉上山田温泉、あんずの里、姨捨の棚田
- 主な祭り／戸倉上山田温泉夏祭り、あんずまつり、稲荷山祇園祭
- 郷土料理／やしょうま、おぶっこ、おしぼりうどん

地域資源を活かした魅力的な公園づくり 千曲市総合運動公園基本構想プロジェクト

千曲市

プロジェクト説明

千曲市の戸倉上山田地域は、戸倉上山田温泉や戸倉体育館等の体育施設、千曲川の自然環境など様々な資源が集まったエリアです。千曲市では、市民の健康増進や交流人口の増加を図るため、それらの地域資源を活かした総合運動公園の整備を目指しています。

白鳥園(温泉施設)や戸倉体育館の

周辺、千曲川河川敷など3つのエリアを検討対象に、有識者や関係団体、地域代表などからなる協議会と3つの部会により検討を進めています。

UDC信州は、幹事会の一員として参画し、協議会や各部会における議論の方向性、進め方等へのアドバイスなど事務局支援を実施しています。

今後の展開

引き続き、千曲市総合運動公園基本構想の策定に向けて、広域的な視点から、官民連携や整備後の公園利活用を見据えたアドバイスを実施し、公園を核に戸倉上山田地域のまちづくりへ展開していけるよう支援をしていきます。

育む

CULTIVATION

10/7 信州地域デザインセンター (UDC信州) シンポジウム2021

これからの信州におけるまちと駅のあり方



相談内容における共通課題として数多く寄せられる内容をテーマに、2021年10月7日にオンラインによるシンポジウムを開催しました。(視聴者数約160名)

今回は、鉄道駅周辺の市街地の再生について、車社会やライフスタイルの変化の中で、駅前広場周辺の商業エリアなどをどのように活用していくのかを踏まえたテーマ設定とし、県内自治体が駅周辺市街地で抱えるまちづくり課題を踏まえ、駅周辺の“まち”のあり方や、駅前空間など“駅”に求められる機能やデザインなどについて、講演、ディスカッションを行いました。

【基調講演】

これからの地方都市がめざす
駅周辺市街地のあり方とは
～新たな機能を踏まえた駅周辺の空間づくり～

東京大学大学院 特任教授
中村文彦氏

「場をつくる」ことについて

まちづくりや交通計画を考える上で大前提となるのは「成熟した地域を残していく(消滅させない)こと」であり、そのために「サステナビリティ(持続可能)」、「クリエイティビティ(創造的)」、「レジリエンス(強靱)」、「ダイバーシティ(多様性)」の4つの視点を踏まえながら「場」をつくり、そこからいろいろなものを繋げていくことが重要。

「場」で大事なものは、「誰もがアクセ

スできること」、「いろいろな過ごし方ができること」、「特定管理者に依存しないこと」であり、人の流れを活かせる(フローの活用)、もともとの集積実績がある(ストックの活用)駅や駅前が候補地となる。

「場」づくりに必要なモビリティ・デザインにおいては、「何のためにデザインするのか」が重要で、速い安だけでなく、どう楽しんでもらうか、どのような行動変容をもたらしたいのか、また、公共交通を考える上でも、乗り継ぎ交通の不足や採算性の悪化等の課題からではなく、「誰にどう移動してもらいたいのか?」、「自分ならどう移動したいのか?」から考えることが大切である。

公共交通について

「移動の選択性」、「移動の自由」がブレないような仕組みを考えていく。

「安全」を大前提として、「Walkable(駅やバス停での歩きやすさ(安心・快適))」、「Reliable(移動サービスを信頼し自慢できる(1日5本でも自慢できるバス))」、「Enjoyable(駅やバス停、車内(移動)が楽しい。眺めも良い)」を考える。

新技術を理解しつつ、振り回されないこと(「シェアリング」、「自動運転」、「MaaS」は流行り関心も高いが、振り回されず、今あるバスやタクシーも含めて、どうあるべきかを考えて選択していくこと。結果として、交通システムが、環境にやさしく、社会包摂を推進し、財源にやさしくなり、持続する社会の形成につながるものになって

いかなければならない。コロナ禍の都市で、まずやるべきことは、「歩行者や自転車への道路の開放」、「新しい公共交通事業モデルの模索実験」、「それらへ市民を惹きつけるためのMaaS活用」である。

戦略的アプローチ（様々な主体がバラバラにやるのではなく、大きな方向性をみんなで共有する「Visioning」と、短期的な目標を設定し実験で検証する「Validating」）が大切。実験は失敗を恐れず、積極的にやってみる。例えば、駅にまんが図書館や自習室を置いてみる、駅前に広場をつくってみる、駅周辺エリアに小さい「場」をたくさん散りばめてみるなど。しっかりデータを取って、机上でも検証していく。決して実験することが目的となつてはダメ。

信州に向けてのメッセージ

信州のまちや駅を見ていると、都市の規模に関係なく、可能性があると感じる。

駅＝鉄道利用者の「場」と考えるのではなく、人の集まる「場」にしていくことが大事。自動車でも気持ちよく過ごせれば人通りも増える。そんな人が増えれば、自動車を使わないで済む楽しい場面が増える。それが、結果的に脱炭素や健康、誇りにつながる。こういうストーリーをつくっていくことがこれからの交通計画だと考える。

【ディスカッション】

これからの信州における“まち”と“駅”のあり方とは

▼登壇者

中村 文彦 氏（東京大学大学院 特任教授）

山下 裕子 氏

（まちなか広場研究所 主宰／UDC信州アドバイザー）

柳沢 文弘 氏（佐久市 建設部長）

篠原 尚一 氏（茅野市 都市建設部長）

▼ファシリテーター

出口 敦 センター長

県内の鉄道駅周辺のまちづくりに関する現状と課題について紹介
（佐久市）

JR小海線「中込駅」周辺について、北陸新幹線駅「佐久平駅」の設置に伴う土地利用変化と既存市街地への影響と絡めながら、中込駅からT字に整備された歩行者専用道路（グリーンモール）の利活用、沿道商店の賑わいなど、今後まちづくりを進めていくうえでの課題が挙げられた。

（茅野市）

JR中央線「茅野駅」周辺のまちづくりについて、郊外にある観光地への乗り継ぎ交通の不便さや、駅前ビルなど含めて居場所のない駅前空間などの課題が挙げられた。

前記事例をもとにしたアドバイス、アイデア提供

（山下氏）

「公共広場」と「公共交通」の関係性、その中でも誰もがアクセスしやすい“駅”の重要性について、尾道で出会った時刻表もない渡し船を利用する電動車いすの高齢者のお話や、兵庫県神戸市で行われている「モヨリノ」（最寄り駅×リノベーション）での高齢者と高校生とのふれあい、青森県八戸における「スマートスポーツシティ」での駅前空間を活用した活動など、交

通のための“駅”ではなく、人が集まるための“えき”のあり方を示された。

中込駅の歩行者専用道（グリーンモール）の活用について、活動が見えにくい建物内でのイベントではなく、“通り”において、誰もが気軽に参加できる掃除活動やラジオ体操、定期市など定期的な活動を多様に行っていくことの重要性をお話いただいた。（中村氏）

茅野駅のような地方都市の鉄道駅（電車の停車本数1時間1本程度）における交通結節点としての乗り継ぎ交通のあり方について、観光地への送迎を共同化し束ねていくことで無駄を削減すること、必ずしも鉄道との接続を良くする必要はなく、乗り換え時間を楽しむことができるデザインができればよいといったアイデアをいただいた。また、交通結節点以外での駅前空間のあり方について、乗り継ぎ交通の待機場所を駅から少し離すことで生まれる空間をどう活用していくかが重要といったアドバイスをいただいた。

中込駅にある歩行者専用道（グリーンモール）の活用について、“高校生以下の子供たち”がキーワードとして挙げられ、子供のためのイベント、居場所づくりからスタートしていくこと、高齢者のための公共交通ではなく、高校生など子供たちのための公共交通の重要性が説かれた。その上で、佐久平駅との機能のすみわけなど広域的な考え方もお示しいただいた。

総括

（出口センター長）

駅利用者として、どういった人が利用し、駅に何を求めているのかを考えていくこと、またそれを実現していくために社会実験を積み重ねてみるのが重要であり、その際は、しっかりと仮説を立てて行っていくことが大切であると話された。

視聴者からの質問、回答

Q1 高校生の居場所は県内の駅周辺において重要。参考事例があれば教えてほしい。

(山下氏)

高校生の居場所は本当に重要。先に紹介したモヨリノも良い事例。高校生は人がいる場所で勉強したい(勉強したふりをしたい?)。よく言われるのは、テーブルがほしい、高校生がいても良い(寛容に見守られている)環境がほしい、といった意見を聞く。

(中村氏)

広島県の庄原にある芸備線の駅(電車の停車本数1日7本)に行った際、駅に自習室があり、電車に乗らない高校生も勉強していた。机に本やスマホを置くことができる場が必要で、充電やWifiがあることが重要。またストリートパフォーマンスなど練習できる、音を出してもいい、大きな鏡がある、などもガラッと空間が変わるのでは。あと気軽に手に入る食べ物もセットである場がよいのではと常々感じている。

Q2 車社会の中で、すぐそのコンビニでも車で行くのが信州ならではの。フライブルグのようにまちの外に駐車場を配置するのは勇気がいるが、車社会の信州において駐車場配置はどう考えていくべきか。

(中村氏)

フライブルグの場合、議論の中で半年ほど揉めていたと聞いている。車を不便にするということに対して理解を得ることは難しい。ある一定の空間において車を排除しようとする、一歩間違えると、そのまちに人が来なくなってしまう。その加減が大事。フライブルグの場合、時間帯と対象を工夫しており、ところどころ抜け道も用意されていた。また駐車場は減らしていない

(建物の駐車場は残している)。そうした調整のもと折り合いをつけていくこと、また、歩いて楽しい場面を作ること、それをきちんとした仮説のもと実験していくことをセットで考えて、少しずつ変えていくことが重要。駐車場の場合、料金設定も効く。便利な場所は値段を上げて、歩かせたいエリアは安くするなど含めて検証していくことも重要。そうした中で、歩くことが楽しいと思える体験を増やしていくシナリオを作ってやっていくしかないと考ええる。

大規模商業施設の中では、人は歩いている。この先に何か楽しい場所があるとわかっていると人は歩く。まちなかでもそれは同じこと。

【総括 (三牧副センター長)】

中村氏のプレゼンテーションの「フロー」と「ストック」という言葉が印象的。この2つの観点から、まちにとっての「えき」ということを考え直す必要があると感じた。交通の結節点で、「フロー＝流れるもの」をいかに“その拠点に集める力に変えていくか”が一つのポイントで“集まる目的”をつくっていかないといけない。その時に大きな力になるのが「ストック」。信州は広

大な自然と歴史的資源があるが、都市空間は「普通のまちなか」でそこで住んでいる方にとってまちの魅力が見えづらくなっているところがあるのかもしれない。ただ、それぞれの地域に魅力がある。もう一度捉え直して人を集める力に変えていくことがUDC信州として、もう一度考え直すべきところなのかなと感じた。

議論の中で「移動を楽しむ・街を楽しむ」という言葉がたくさん出ていたり、中村氏からもenjoyableというキーワードを出していただき、UDC信州として今あるストックをいかに楽しむかを追求しながら、人が集まるまちなかを議論していきたい。

中村氏から、ビジョンを共有し実験を繰り返していくということの大事さを強調していただいた。失敗を恐れずに、皆で議論しながらチャレンジしていきたい。引き続き多くの課題やアイデアをお寄せいただければ。

以上、長野県内の多くの地域で見られる駅周辺市街地のまちづくり課題をどうやって解決していけばよいのか、どんなまちを目指していけばよいのか、ヒント、アドバイスをたくさんいただくことができました。



▲シンポジウムの様子(オンライン開催)



7/27 第7回まちづくりセミナー

企業版 ふるさと納税について

第7回のセミナーは、最近、活用する自治体が増えている「企業版ふるさと納税」がテーマでした。今回は特に、まちづくりの関係部局のスタッフが活用するための説明に特化してお話しをしていただきました。

講師は、株式会社JTで企業版ふるさと納税を担当されている曽根進さんと、実際にそれを活用してまちづくりを進めている小諸市の五十嵐均都市計画係長のお2人。

曽根さんから、寄附をしたい企業は多数いること、ただし、単なる施設改修への寄附ではなく、改修後の活用方法まで含めたストーリーに寄附をいただくような提案が必要だというお話がありました。また、小諸市さんからは具体例として、公共交通の課題を解決するプロジェクトに対して寄附をいただいた事例を紹介していただきました。UDC信州にもノウハウが蓄積してきましたので、提案などしていきたいと思っています。



11/29 第8回まちづくりセミナー

シンポジウムおかわり! まちづくりにおける 交通のあり方

第8回のセミナーは、2021年UDC信州シンポジウムにおいて中村先生のご講演が好評だったことから、「まちづくり」、「公共交通」、「MaaS」といったキーワードをもとにお話の深掘り、おかわりとしてセミナーを開催しました。

中村先生からは、具体的な事例を交えながら、新たな技術を理解することが重要であり、それを活用することが目的ではないこと、見誤ったり振り回されてはいけないことをお話いただきました。

長野県内でも、地域の公共交通の課題解決のため、デマンド交通の導入やシェアサイクル、自動運転の実証実験等、交通の新たな技術、取り組みを進める市町村が見られるようになってきました。新しい挑戦は大変で大事なことですが、あくまで手法です。どんなまちを目指したいか、誰にどんな風に乗ってほしいのか。きちんと「目的・目標」を据え、達成するために何を行っていくかをよく整理することが重要と再認識できました。



2/15 第9回まちづくりセミナー

官民連携事業で期待される 行政の役割について

第9回のセミナーでは「官民連携」をテーマにしました。最近のまちづくりでは欠かせないキーワードですが、行政と民間の役割分担がよく分からないというご相談を頻繁にいただくことから、民間の立場で様々なプロジェクトを進めている株式会社WAKUWAKUやまのうちの 中尾取締役を講師にお迎えしました。

中尾さんからは、まず「人や地域との信頼関係」が大切であり、それは、組織や団体の代表者だけでなく、若い経営者などとも膝を突き合わせて話すこと、地域の歴史をしっかりと学ぶことで構築することができるというお話がありました。また、官民連携事業で期待する行政の役割については「人と人が繋がるきっかけづくり」に期待をしており、民間同士が繋がりようとした場合に生じる隙間を、人や制度、補助金などで埋めてもらえると民間は活動がしやすくなるとのことでした。このテーマについては引き続き題材にしていきたいと考えています。

発信する

MEDIA

ホームページやSNSでも発信しています！



公式WEBサイト

- ・令和3年度 48,804 view
- ・発信コラム数 82コラム

公式SNS

f facebook



Instagram



Twitter



公式メールマガジン

- ・毎月最終金曜日に配信 (全12回)
 - ・メルマガ登録者数 609名
- ※新規登録は公式WEBサイト「メールマガジン登録」

出口センター長、中島理事長、阿部知事で意見交換を行いました！



2021年12月13日に、UDC信州の構成団体でもあるUR都市機構の中島正弘理事長が来県され、出口センター長同席のもと、長野県 阿部知事との意見交換を行いました。

出口センター長からUDC信州のこれまでの活動状況と今後の取組み方針を説明した後、フリーディスカッ

ションとなり、暮らし、観光、交通など、様々な意見が交わされました。

より目に見える成果を出していくこと、駅近・周辺の魅力向上、低炭素社会を目指した取組み、民間企業との連携に関することなどが共有されました。

また、中島理事長からは、「都内の団地で、長野県内の自治体（上田市）

から直送された野菜や果物が並ぶ“プチマルシェ”を開催したところ大変好評だった」というお話があり、阿部知事からは「野菜や果物だけにとどまらず、様々な地域間交流をしていきたい」との提案もありました。

今後の活動に向けて様々なヒントをいただいた懇談の場となりました。

プロジェクト説明

URでは、地域経済の活性化に取り組む地方のみなさまとUR団地等にお住まいの方々を繋ぎ、地方経済の活性化と団地等の魅力向上を同時に達

成するプロジェクトを、関係会社を含めたURグループで推進しています。

具体的には、特定地域の産地直送の新鮮な野菜などをUR団地等で販売する「プチマルシェ」を開催し、物

販のみならず地域の情報発信を行い、地方のみなさまとUR団地等にお住まいの方々との交流の場を提供しています。

「with コロナの“新しい暮らし” STAY in 光が丘」@光が丘団地（東京都練馬区）

練馬区の姉妹都市である長野県上田市の産地直送のリンゴ、お米、ジャム等生鮮品や加工品を販売し、団地にお住まいの方や近隣の方など多くの方にご参加いただきました。



「ふれあい花と緑のフェスタ」@平塚高村団地（神奈川県平塚市）

長野県上田市の産地直送の果物等が並べられ、参加されたお客様からは、「これほど団地に多くの方が遊びに来たのを見たのは初めてだ。」と好評の声もありました。



「パルテノン大通りマルシェ」@多摩センター駅前（東京都多摩市）

多摩センター駅前の活性化持続のイベントとして開催しているマルシェ（市場の賑わい創出の実証）において、長野県小諸市の特産物を販売しました。



おわりに UDC信州スタッフより



センター長 出口 敦（東京大学）

3年目を迎えようとするUDC信州として、これまで実施してまいりました、地域と共に進めていくまちづくりのプロセスに係る支援も行いつつ、より具体的で目に見える成果として空間デザインにつながる動きを出していくこと、そしてUDC信州が取り組むような動きが県内各地で立ち上がることを見据え、進めていく段階になっていると考えております。引き続き、UDC信州の構成団体が連携して取り組んでまいりますので、県内まちづくり関係者の皆様には、今後もご協力をお願いいたします。



副センター長 林 靖人（信州大学）

コロナ禍は、人々の行動を制限し、観光関連事業を中心に移動・交流を基盤とした産業に大きな打撃を与えました。しかし、その変化は、対面での会話や交流の重要性を再認識させ、人と人が繋がることを強く意識させる機会になりました。また、足下に目を向ける機会になったり、一方でDXによって時空間を越える新サービス創出や変革を加速させました。UDC信州では、新たな社会の兆しに意識を向け、みなさんのピンチをチャンスに変えながら、まちというLabで新しい未来を創造するための場や取組に邁進してまいります。



副センター長 三牧 浩也（東京大学）

「ウォークアブル」「ウェルビーイング」などのまちづくりに求められる新たなテーマ、「スマート」「公民連携」などの新たな方法論に係るキーワード、ただでさえまちには様々な課題があり、将来に向けて考えるべきことはつきない。だからこそまちづくりは難しく面白い。UDC信州が生まれてはや3年。経験もだいたい蓄積されてきた。もちろん悩みもつきず、成果が見えるには時間がかかるが、様々なトライアル自体から得るものがあるはずである。この活動報告書から、様々なトライアルを感じていただきたい。



チーフコーディネーター 河原 輝久（長野県）

UDC信州のメンバーとなって1年が過ぎ、振り返ると反省すべき事ばかり。そんな中でも、大勢の方々との出会いがあり、様々な点で勉強させていただき、支える（UDC信州の主たる活動方針）以前に皆様に支えられた年でもありました。UDC信州は設立して丸3年が経とうとし、私も2年目に突入です。県内のまちづくりにおいて、UDC信州としても、より一層「目に見える成果を出す」ため、正解がない中、試行錯誤しながらも前に進めることが出来るよう、皆様と共に取り組んでまいります。



コーディネーター 倉根 明徳（長野県）

UDC信州も設立から2年半が経過。設立から1年くらいは各地域の課題整理に費やす時間が多かったのですが、2年目の今年は、報告書の中でも紹介をさせていただいている実証実験や地域住民を含めたワークショップなど、いくつかの具体的なアクションを実践することができました。次はこれらのアクションを日常的なものにしていくため、仕組みづくりやファイナンスも考えていきたいと思っております。引き続き、関係する方々と楽しみながらプロジェクトを進めていきます。



コーディネーター 西沢 和生（長野県／UR都市機構）

いくつかのプロジェクトを担当させていただき「信州に居心地のいい空間を増やしたい」に貢献できるよう取り組んできました。まちづくりは、担当者が楽しくないと面白いものではないとの想いから、市町村の担当者の方と打ち合わせをする際もいつも担当者が「面白い」と思ったことをやりましようと言ってきました。1年活動して役所の担当者、地元の方から「面白かった」と言ってもらえたことは非常に良かったです。引き続き、UDC信州のプロジェクトが「面白く」なるよう期待しています。



コーディネーター 征矢 悠（長野県）

UDC信州のメンバーとなって2年。“まちづくりはひとづくり”と言われるように、改めてひとづくりの難しさを感じる1年間でした。市町村職員や地域の方々、学生など、様々な場面で多様な主体と連携する機会をいただく中で、UDC信州として、どうやって伴走していけばよいか、どんな支援ができるのか、日々模索してきました。人と人の繋がりは奥が深い！これでUDC信州を離れることとなります。まだまだ足りない部分はたくさんありますが、この経験を活かして、これからも“ひとづくり”に携わっていただければと思います！



コーディネーター 東城 葵（長野県）

まちづくりの右も左もわからず県内を飛び回り、地域の課題を肌で感じ、熱い想いを持つ人、地域で頑張っている人、悩んでいる人、県・市町村行政の人、様々な立場の人と相対した時、まちづくりって？私ができることは何だろう？と悩みまくった日々でしたが、UDC信州が関わったことで小さな芽が出はじめていることもある…気がしています笑 自分の答えは出ていないので、まだまだ悩みは尽きませんが、「自分事」と捉えることの大切さ、人のつながりを大事にしながら、私ができる「まちづくり」をしていきたいです。



コーディネーター 佐久間 圭子（長野県）

一朝一夕では解決できないそれぞれの地域に横たわる課題があることを丁寧に紐解き、解決に向けた仮説を小さい規模で試してみながら時間をかけて多くの人が見ているものを共有し合うことができた2年間でした。令和3年度をもって離れることとなりますが、UDC信州を離れてからも、そこに住まう人たちと、将来住むであろう人たちが愛着を持ち住み続けられるような活動をしていきたいです。UDC信州を通じてご縁をいただいた皆様本当にありがとうございました！

コーディネーター UR都市機構



UDC信州設立から3年。市町村からのまちづくりの相談に対し、どのような支援ができるのか、皆で議論し、試行錯誤を重ねて取り組んできました。令和3年度は、広域的な視点でまちづくりを考えるUDC信州ならではの取組みである「しなの鉄道沿線地域の回遊性向上プロジェクト」の一環として、小諸市におけるDX社会実験の企画・検討が進み、関係者間で協定が締結されるなど、着実に歩みを進めてきたと感じる1年でした。URは引き続き、UDC信州を通じて長野県のまちづくりを支援していきます！



アドバイザー 新 雄太（東京大学）

まちをつくるのではなく、まちでつくる。手づくりと同じように、手でつくる。そのまちでその人たちで、その資源でつくっていく。やりたい未来にほんの少しでも力になれば。果たしてUDC信州は県内各地のまちづくりにどのような貢献ができるのか。市町村支援の先にある県民の皆さんのウェルビーイングにどう影響しているのだろうか。必要とされる組織へ向けて、引き続き丁寧に地域に向き合い、喜怒哀楽を共にして汗をかき、そしてよりガツガツ人と人、地域と地域を繋いでいただければと思います。



アドバイザー 山下 裕子（まちなか広場研究所）

2021年度、UDC信州では、オンラインとオフラインのハイブリッドが日常になった。これは、広域連携&ネットワークを強みにしている我々の活動にとって、とても有益であった。オンライン化によって、遠方の方々や平日のセミナーに気軽に参加していただけ、また深く関わらせていただいた茅野駅の事業では地元からも県外からでも会議の参加を叶え、有り難い。個人的には、「駅」という存在の新たな可能性を強く感じた。誰にとっても行きやすいアクセス状況を叶えている駅が、多様な人の居場所となるポテンシャルにワクワクだ。

UDC信州

信州地域デザインセンター

8:30~17:15 (土・日・祝祭日休)

〒380-0832

長野県長野市東後町16-1 2階

TEL 026-405-4861

MAIL info@udcshinshu.jp

WEB <https://udcshinshu.jp>

 @ u d c s h i n s h u

長野駅より徒歩16分

※お車でお越しの際は、近隣のコインパーキング等をご利用ください。



◀公式WEBサイト

